

ますます充実するアメニティ

当院では、周囲の豊かな自然を生かしながら患者さんに充実した療養生活を送っていただけるようアメニティを充実させてきました。昨年には、敷地内に本格的な野球グラウンドが完成し、作業療法プログラムやレクリエーションの幅も広がりました。今回は当院の主なアメニティについて写真を交えてご紹介します。

敷地内に本格的な野球グラウンド

平成20年10月、病院敷地内に野球グラウンドが完成しました。日中はソフトボールなどデイケアでのサークル活動、各種レクリエーションで有効に活用しています。完成直後には、竣工を記念し職員紅白試合でグラウンド開きをしました。また、当院には職員の福利厚生として野球部(香雪ブレイブス・平成8年創部)があり、就業後にはみんなで汗を流しています。今年度は、さらに部を強化するために、新入部員を募集中です。他施設との交流試合も行われ、今後は地域への開放も検討していく予定です。



多彩な施設で作業療法やデイケアプログラムを行っています。

患者さま本位の、快適で便利な療養環境と、作業療法プログラムやデイケアで利用する施設や憩いのスペースをご紹介します。



●テニスコート
精神科デイケアのプログラムでテニスコートは良く使われています。



●花壇
精神科デイケア「ひまわり」のメンバーによって植えられた花壇



●高齢者デイケアのウッドデッキ
晴れた日はウッドデッキのパラソルで過ごす日もあります。ゲームやお茶会なども行われます。

●陶芸コーナー
陶芸コーナーでは、作業療法の陶芸プログラムを週2回行っています。できあがった作品を病室で使う方もいます。電気窯も備えています。



●プレイルーム(体育館)
ゲートボール、卓球、バドミントン、バレーボール、カラオケ、映画鑑賞など、リハビリ科の作業療法プログラムで使われることが多いプレイルーム。文化祭のメイン会場にもなっています。

●理容室
待ち時間のない予約制の理容室



●売店
入院生活に必要なものがほとんど揃っています。



●病院前のバス停
庇(ひさし)のついたバス停待合

●屋外トイレ
屋外での活動時に利用します。ナースコールを備えており、何かあればスタッフが駆けつけます。

喫茶コーナー ホットひと息 「セドナ・カフェ」

病院のエントランスをくぐるコーヒーの香りが。平成16年、A館完成時に患者さんやご家族の憩いの場となるよう喫茶コーナーができました。今年で4年目を迎え、美味しく楽しくそして安くをモットーに運営しています。オープン当初、患者さんとの接し方にとまどうことが多かった喫茶スタッフでしたが、徐々にお客さんとの程よい距離感をつかみ、今では患者さんやご家族の方々のよき話し相手、相談相手にもなっています。また、喫茶に寄せられる要望にはできるだけ応えており、軽食で要望の多かったトーストは、今年追加



されたメニューのひとつです。手作りケーキや季節の味が楽しめるアイスソフトも好評です。時に患者さん同士が熱く語り合ったり、時に一杯のコーヒーで何時間もぼーっとしたり、そんな居場所として許されるのもセドナカフェならではの魅力です。当院を退院された方が喫茶に来なくなるのが淋しいとスタッフは言います。通院・入院の方のみならず、お近くを通る際には、みなさまぜひお立ち寄りください。



コーヒー300円(おかわりOK)、
手作りケーキ200円、エビピラフ400円など
営業時間 月～金 9:30～16:00 土 9:30～12:00



普段あたりまえのように使われるアメニティは、実は大切な治療環境でもあります。活き活きとした自分をとり戻すためにどんどんご利用いただきたいと思えます。今後もご利用者みなさまの声に耳を傾けながら更に充実を図っていきます。

学術研修レポート7

「生命倫理について」～語られるものと語られざるもの～

東洋英和女学院大学 人間科学部 大林 雅之 教授

6月の学術研修会では、東洋英和女学院大学の大林雅之教授が、日本における「生命倫理」についてわかりやすくご講演くださいました。日本における「生命倫理の語り」について、「医療」「生」「死」の側面から捉え、具体的な例を挙げて考えていく内容でした。例えば、臓器移植については近年、改正議論がなされていますが、従来の日本社会では「子供の命を助ける」という誰もが反対できない命題に対して「生」「死」について明確に議論を行い答えを出すべきではないと考えられてきました。日本における生命倫理の視点を振り返ると、日本人は、生命・生活の根幹に関わる部分については、「暗黙の了解」という形で隠蔽し、それを共有化して生活していたという文化があります。「暗黙の了解」の中には、本当に大事な事を議論した結果

(例：臓器移植)は存在せず、本質的な部分の議論では、人の死の捉え方についてははっきりと明言できないと教授は話されました。最後に生命倫理について、「語られるものとは核心を回避する曖昧な議論をいい、語られざるものとは生命の暗黙の決断(核心)である」とのことでした。私たち医療専門職として今回の講演は、患者様の人格を尊重した医療を実践していくうえで生命倫理の大切さを理解する貴重な内容となりました。(第4病棟 看護主任 白濱 忍)

